

渡 島 大 島

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏に経過しました。

平成 18 年は火山情報の発表はありませんでした。

○ 概況

・火口や噴気の状況（図 1～3）

5 月 4 日及び 11 月 18 日に第一管区海上保安本部が、10 月 30 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、噴気は認められず、火口の形状等にも特に変化はありませんでした。

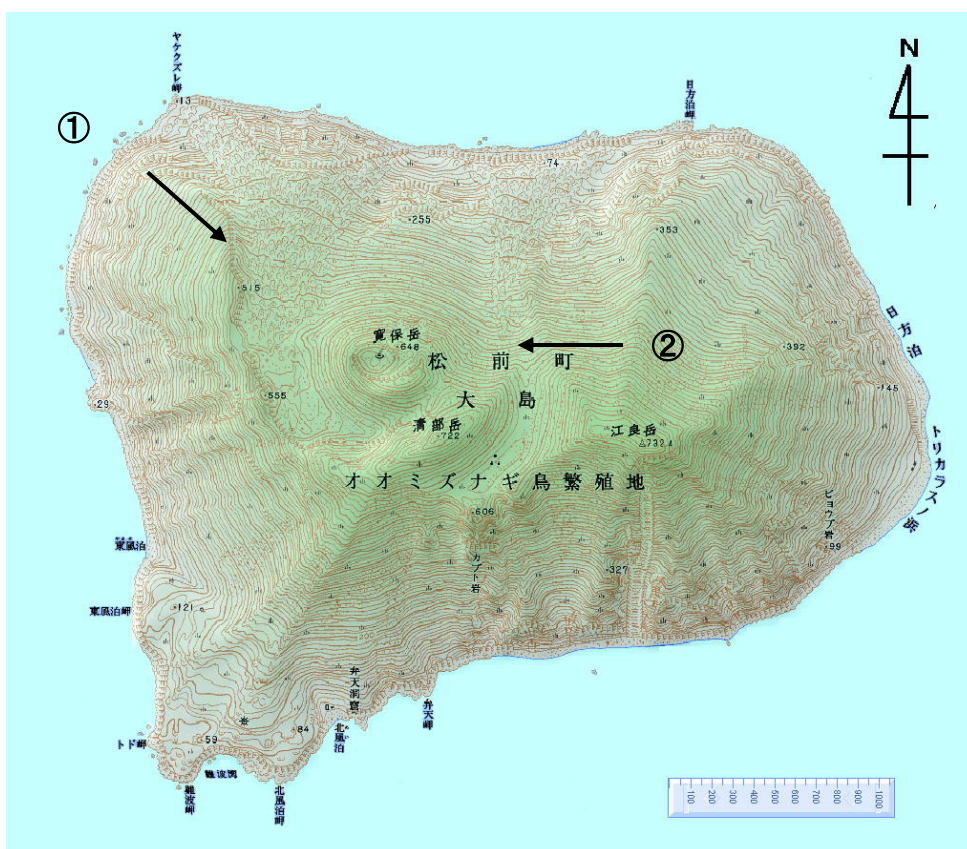


図 1 渡島大島 火口周辺図（丸数字：撮影場所 ↑：撮影方向）

参考：

渡島大島の山頂部には中央火口丘（寛保岳：標高 648m）があり、径約 200m×300m、深さ約 70m の火口があります。この火口内壁には 2 か所の地熱地帯が知られています。1991 年に実施した機動観測では、火口南東部の地熱地帯で最高 77℃、北部の地熱地帯で最高 38℃（ともに地中深さ 10cm の温度）を観測しています。また、南東部の地熱地帯ではごく弱い噴気が認められています。

※資料は気象庁のほか、第一管区海上保安本部のデータも使用しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）。



第一管区海上保安本部提供（2006 年 5 月 4 日 火口周辺図①から撮影）



第一管区海上保安本部提供（2006 年 11 月 18 日 火口周辺図②から撮影）

図 2※ 渡島大島 北西側上空から撮影した山頂部

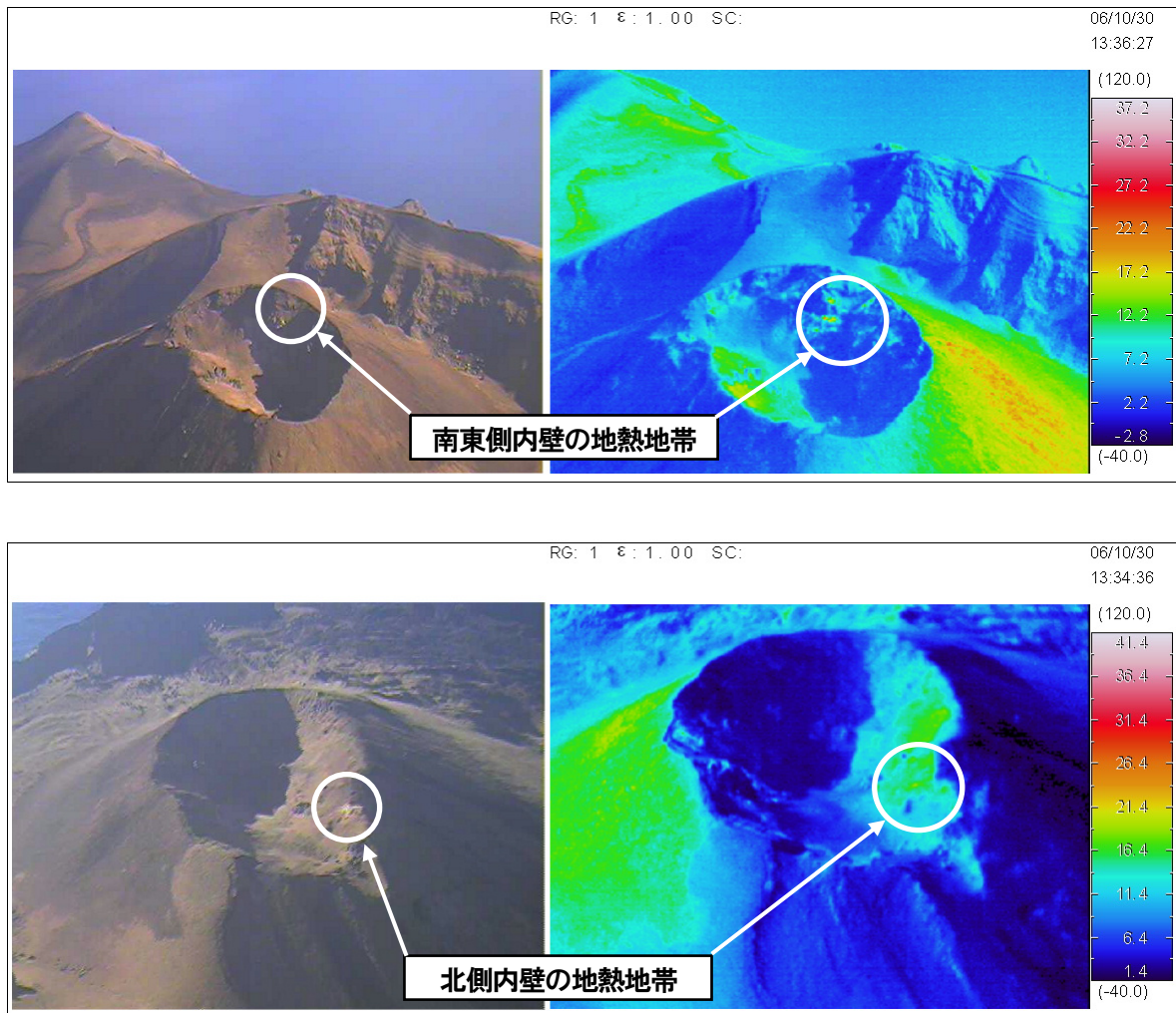


図3 渡島大島 赤外熱映像装置*による寛保岳主火口の表面温度分布

上段： 2006 年 10 月 30 日 火口周辺図①（北西側上空）から撮影

下段： 2006 年 10 月 30 日 火口周辺図②（東側上空）から撮影

- ・ 赤外熱映像装置*による観測では、寛保岳（中央火口丘）主火口南東側内壁の地熱域に対応した高温域が認められましたが、熱域の拡大等は見られず、前回（2003 年 4 月 18 日）と比べて特に変化はありませんでした。一方、北側内壁の地熱地帯は日射の影響が大きく地熱の有無を判別することはできませんでした。

* 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。